

これからの輸送包装に求められる事

日本包装管理士会
株式会社東北ウエノ 鈴木 雅彦
(東北支部長)

新しい時代がすぐそこに迫ってきている、技術進歩があまりにも早くて難しかったことや出来ないと思っていたことが、今では簡単にできる時代へと変わってきました。包装、輸送包装の世界で仕事をしてもう何年でしょう、今年には58期の管理士講座が始まりました、私は23期なので既に35年の時が流れた東北ウエノの鈴木です。これからの輸送包装やロジスティクスの中で重要な役割を果たしている輸送包装について、考えてみました。

まずは環境への配慮です。持続可能性は包装の主要な要素となっています。消費者は環境に配慮した包装を求めており、再生可能な材料やリサイクル可能なパッケージが重視されます。廃棄物の削減や二酸化炭素排出量の低減に貢献する包装ソリューションが求められます。輸送包装では環境への負荷を減らすために、持続可能な材料や省資源化の技術が要求されます。再生可能な素材やリサイクル可能な包装材料の使用、リサイクル原料を使った包装材料の使用、バイオプラスチックの採用、廃棄物の最小化などが重要となっています。

輸送包装は、製品が物流プロセス中で衝撃や振動、湿気、温度変化、汚染などの損傷から保護する役割を果たします。パットの構造、緩衝材、保護フィルムなどの要素を組み合わせることで製品を安全に梱包し、輸送中の事故や環境要素による損傷を最小限に抑える事が求められます。輸送包装はロジスティクスの中でも重要な役割を果たしています。物流プロセスの効率性を向上させるためには重要プロセスです。適切な包装を行う事で物流効率の向上に寄与します。適正包装設計により、製品の積載効率を最大化し、トラックやコンテナの容量を最大限に活用できます。また、包装のサイズや形状を最適化することで、輸送コストや燃料消費量も削減し、CO₂の排出量も削減できます。また適正包装により物流作業のスムーズさや効率性を高め、容積の最適化やパレタイズの最適配置なども実現できます。これにより、運送コストや輸送時間の削減、労働力の最適な活用が可能となります。

(巻頭言は次ページに続きます。)

《INDEX》

日本包装管理士会 東北支部長挨拶	1
本部だより	2
関西支部 50周年記念式典	4
支部だより	7



PACKAGING INFORMATION
包装技術者の連携と協力をめざす

日本包装管理士会 会報
No.135

ipp
news

ipp news
2023年8月25日発行
編集人/道明 誠
発行/日本包装管理士会
東京都中央区築地4-1-1
TEL 03-3543-9250

さらにIoT（モノのインターネット）技術の進歩により、輸送包装にもスマート包装な機能が求められます。センサーや通信技術を組み込んだ包装材料やラベルを利用して、製品の位置追跡、温度管理、湿度制御、衝撃検知などの情報をリアルタイムでモニタリングすることが可能です。これにより、効率的な物流管理や品質管理が実現されます。その為にも、輸送状況のモニタリングによる輸送環境の調査は、適正包装を実現するためには大変重要です。包装は来年の2024年問題解決の一つの要因を担っています。

倉庫では、自動化技術の導入が進んでいます。自動包装機やロボットによる梱包、パレタイズ、倉庫管理などのプロセスが効率化されます。さらに、人工知能や機械学習を活用した予測分析や最適化アルゴリズムにより、在庫管理や輸送計画の最適化も実現されます。

ロジスティクスにおいて包装は製品の保護、物流効率の向上、倉庫管理の簡素化、製品情報の提供だけでなく、ブランド価値の向上などの役割をも果たします。適切な包装は物流チェーン全体の効率性と品質を向上させるだけでなく、消費者の満足度や信頼性も高めることができます。

これからの輸送包装では、製品の耐久性と保護、持続可能な素材の利用、スマートな機能の統合、自動化と効率性の向上、経済性と省資源化が求められます。これらの技術の進歩により、より安全で環境に配慮した輸送包装が実現され、効率的な物流と持続可能なビジネス活動が促進されるでしょう。

包装管理士の仕事は、これからの生産活動の中ではとても重要な役割を担っている事が分かります。多くの管理士メンバーがこの重要な仕事を完結するためにも、この包装管理士会で、より切磋琢磨する事を望みます。

尚、この原稿は流行りのChatGPTを利用して作成してみました。新しい時代です！

事務局からのお願い

活動によっては、
会員の皆様にEメールで連絡を
差し上げる機会が多くなっております。
会員の方には必須事項として、
連絡用Eメールアドレスの登録を
お願いいたしておりますが、
まだ未登録の方がいらっしゃいます。
事務局宛にEメールを送信して頂き、
登録をお願いいたします。
e-mail : ipp@pk9.so-net.ne.jp

本部だより

第57回定時総会に関するご報告

理事（事務局担当） 井上 伸也（5期）

第57回日本包装管理士会定時総会は、総会会場参加（対面方式）とWeb参加および議決権投票ハガキによる個別審議参加の3方式の併用といたしました。

結果は、会場参加が8名、Web参加者が4名で、投票はがきによる参加者は246名となりました。今年5月に世界包装機構(WPO)の生涯包装功労賞を受賞されたIPP元会長の有田俊雄氏(11期)も会場参加の一人でした。昨年度に続き3方式併用実施でした。総会

前日までに議決権行使状況をどの時点で公表すべきかが今後の課題として残りました。

議決権行使のハガキは6月20日までに投票(投函)していただくことをお願いし、6月23日午前中事務局到着分までを有効としました。また、会場参加者およびWeb参加者の投票は総会当日の意思表示を優先した集計といたしました。

定款の第17条に定足数「(1) 総会は、出席者数の合計が全会員数の1/5以上の出席で成立する。

(2) 書面、または代理人による表決者は出席したものとみなす。」となっており、本総会は定款に則り成立しました。結果は次ページ（色枠内）の通りです。

日本包装管理士会 定時総会 会長挨拶

皆さんこんにちは。日本包装管理士会会長の山田孝志です。管理士講座は35期です。

新型コロナウイルスの感染予防もワクチンや治療薬が普及してインフルエンザと同じレベルの対応となり、世の中の雰囲気はコロナ禍前に戻りつつありますが、変化した社会現象はすべて元通りに戻らず、新しい時代の環境として息づくことと思われま

す。例えば、コロナ禍前は毎日会社に通勤していたことが、テレワークの環境が整備されると会社に行かなくて済む作業は自宅やワークスペースからWEBでできるようになりました。営業活動も事務所に出勤してから訪問先に行き、終わると事務所に戻らないと勤務時間の査定ができないとしていたことが、今では携帯端末の活用とルールの見直しで直行直帰ができるようになり、事務所に往復していたことが無駄に見えるようになったと思います。様々なところでIT技術の活用が進み、コロナ禍前後で生活様式に変化が見られていることにお気づきの人も多いと思います。すでに昔話になりましたが、レジ袋の廃止は困るとしていましたがエコバックの普及が定着して、汚れるような物とか衛生的にしたい場合だけ、環境配慮されたポリ袋を購入して使うようになり、それが当たり前になったと思います。

IPPの活動状況は、見学会やセミナーは以前のような開催頻度には戻っていませんが、Zoomの利用とリアルとの併用での開催が広がっています。支部単位で行っていた新会員歓迎セミナーを、昨年もZoomを使用して東京から全国一斉に配信して行いました。WEBでの開催は参加する人の場所を選ばないことから全国均質の会員サービスの提供をできるというメリットがありますので今後も活用していきたいと思

います。また、就労人口の変動に呼応するように会員数が減少し続け、企業の経費削減もあって増える見込みがありません。IPP活動の在り方や年会費を現状のまま続けるには予算配分の仕方の見直しをするなどの改善を、本年度ワーキング委員会を設置して検討していきたいと考えます。

本年の総会も、全国の会員の参加の利便性を考慮して、事前に登録した会員は視聴して質問できるWEB配信と会場に参加したい会員向けにはリアル参加(集会形式)とのハイブリットで実施します。会員の意思の確認は、返信ハガキ、メール等の通信手段を使って行うことは従前どおりと致しました。

最後に、うれしいお知らせがあります。包装管理士の大先輩で元会長だった有田俊雄さんが世界の包装界では名誉ある「生涯包装功労賞」を日本人として初めて受賞されました。有田さんは常々「生涯現役」ということを話されていましたが、そのとおりに実践され、包装界の発展に貢献をしてきました。その功績に敬意を表するとともに、我々も後輩として後に続いていきたいと思

います。ご清聴ありがとうございました。

回収された議決権行使はがきの詳細内容

1. 会員数：562名
2. 投票数：258票 投票率=45.9% (内訳：有効票=254票、無効票=4票)
3. 有効票：254票 有効票の内訳は、議決権行使・賛成=102票、委任票=152票
4. 議決権行使結果 (委任票152票は賛成票として集計)
 - 1号議案 2022年度事業活動報告及び収支決算報告 ⇒ 賛成254票で承認
 - 2号議案 監査報告 ⇒ 賛成254票で承認
 - 3号議案 2023年度事業活動計画(案)及び収支予算(案) ⇒ 賛成254票で承認
 - 4号議案 定款の一部改定の件 ⇒ 賛成254票で承認



前年に続き議決権行使ハガキが100%回収されなかったことは残念に思いますが、3方式併用を受け入れていただいた会員各位には大変感謝いたしております。コロナ禍を契機として始めたこの方式ですが、今後の総会方式として定着することと考えております。ご理解の上でご協力をいただけることを願っております。

総会会場およびWeb配信会場としては、「アットビジネスセンター池袋駅前別館802室」を使用いたしました。会場はリアル参加者を想定し余裕のある広さとして定員30名の部屋を準備し、Web参加者には会場保有のNET高速回線を使用して配信を行いました。まだまだシステムや機器を使いこなせていないことを反省しております。

祝 50周年 おめでとうございます 🎉



◆関西支部50周年記念式典を開催

関西支部 長崎美智子 (46期)

2023年2月20日、関西支部50周年記念式典を大阪市内ハートンホテル北梅田にて開催致しました。記念式典、パーティーとも満を持してリアル開催で行いました。本部からは山田会長、東北支部からは鈴木支部長にお越しいただきました。

祝辞は有田俊雄氏、御年90歳。有田さんの包装人生を「人生3毛作時代」として、未来の包装へのはなむけ、期待を述べていただきました。



祝辞：有田俊雄様

記念講演は

奈良大学文学部文化財学科（保存科学）

魚島純一教授に「文化財を“包む”」というテーマでご講演いただきました。

博物館学芸員をはじめとする文化財に関わる人々は唯一無二の文化財を守り、後世に残していくことが仕事の一つです。また展示会を通して文化財を公開することも仕事です。

後世に文化財を残していくためには虫、カビ、さび、破損などから守らなければなりません。文化財の劣化に大きく影響するのが温湿度。記念講演では正倉院宝物がなぜ1,300年経った現在でも見事に保存されているのか、を導入とし、魚島教授の研究テーマである虫害防除、湿度環境の安定と包装材の関係について講演をしていただきました。

酸素バリア、水蒸気バリアの高いフィルムは文化財の保存環境をキープし、さびも防止できる。バリ

ア性の高いフィルム袋を使用すれば大がかりな殺虫処理装置も不要、価格も安い。日本には約5,700の博物館がある（文化庁ホームページ、平成30年調査）が、大規模装置を持ち、文化財保存のために多くの費用をかけることができる博物館は一握りであることも懸



魚島純一教授



記念式典会場

親会でうかがいました。

日本の優れたバリア素材が文化財保存にも大きく貢献できる可能性を大いに感じました。

運営予算が潤沢ではない博物館の方が多く、魚島教授が仕事をされていた徳島県では9割の博物館の費用が不十分であると振り返られていました。

さらに昨今の電気代高騰は規模を問わず博物館にとって非常に痛手であるとも話され、日本の最高峰の東京国立博物館でさえ悲鳴を上げていたことは皆さんの記憶にも新しいと思います。

さらに博物館の間での輸送でも包装は欠かせません。段ボールやクラフト紙、発泡シート、薄葉紙と呼ばれる和紙が使われます。特に興味深いのは薄葉紙です。単純ですが非常にマルチな梱包資材です。くしゃくしゃに丸めると緩衝材になり、細長く切ると文化財と緩衝材を固定する紐にもなります。特に紐としての用途において強度はあるが、一定以上の力が加わると切れます。文化財が壊れる前に紐が切れるのです。筆者が所属する会社は紙加工業、改めて紙という素材のすばらしさに感心した次第です。

魚島教授は講演の中で「当たり前のように文化財を梱包してきたが、文化財保存、保護にも包装は欠かせないものであることに改めて気づいた。」ともおっしゃられていました。

日本の財産である文化財を守っていくために、それぞれの時代の状況に合わせ、課題を打破し、解決できるのが包装であり、包装の未来はこれからもまだまだ明るいと感じた次第です。

記念式典に続き、懇親パーティーを行いました。

感染対策をしっかりと行い、飛沫感染予防のパーティションを置き、テーブル当たりの人数も減らしての着席でのパーティーとしました。祝辞と乾杯の音頭を日本包装管理士会会長の山田孝志様よりいただきました。その後、歓談を挟んで、包装管理士会および関係団体代表者の皆様から祝辞をいただきました。

東北支部支部長 鈴木雅彦様、技術士包装物流会 関西支部支部長 真野仁孝様、日本包装コンサルタント協会関西支部支部長兼日本包装専士会事務局長 今田克己様、W会代表 遠藤明子様、ありがとうございました。



日本包装管理士会
会長
山田 孝志様



東北支部
鈴木雅彦様



真野仁孝様



今田克己様



遠藤明子様

懇親パーティー・支部だより

懇親パーティーも大盛況で、まるで立食のパーティーのように皆が歩き回って参加者と交流を深めていました。包装のプロフェッショナルたちは、運営委員（主に私）の狙い通り、記念講演のテーマ「文化財を“包む”」に非常に興味を持って、魚島教授との名刺交換や質問等も活発に行われていました。

顔と顔を見合わせての交流はやはり良いなと心から感じた次第です。



会場には、50年のあゆみを振り返る年表

写真パネルの展示、スライドショーで紹介致しました。「懐かしいなー！」という声が上がっていました。改めまして、無事に盛大に記念式典およびパーティーを終えることができました。

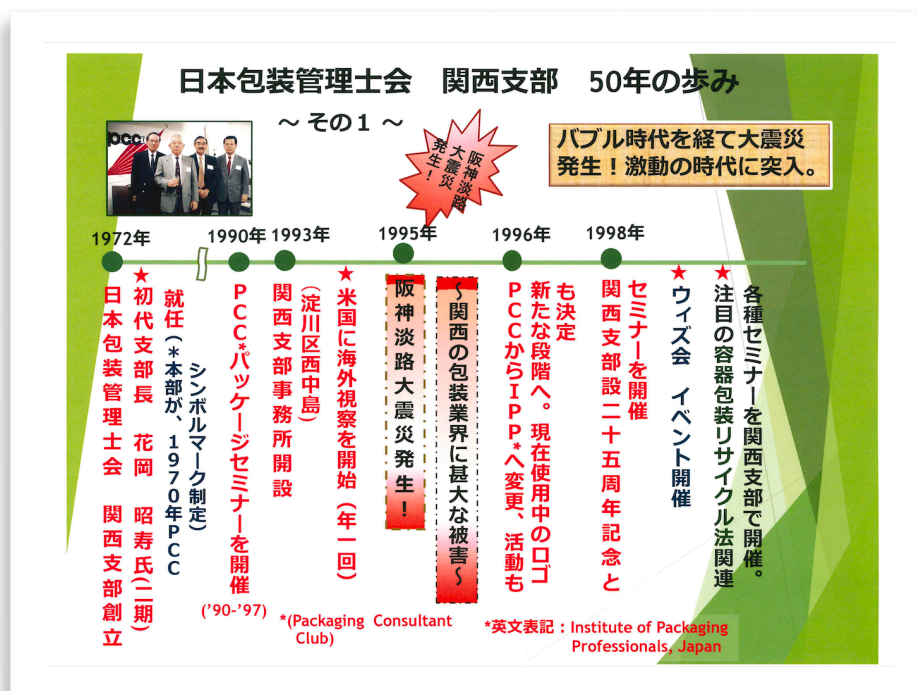
全国各地からご参加いただいた来賓の皆様、関西支部会員の皆様にお礼申し上げます。そして関西支部の運営委員の皆様お疲れさまでした！

最後に、有田氏が祝辞を締められた言葉「時代の要請に対応して、包装は「進化」を遂げ続けます。「包装は永遠です」」を引用してこの原稿をしめたいと思います。

歴代支部長

在任期間	氏名	卒業期	所属企業（任期時）
初代 1972～1974	花岡 昭寿	2期	三洋電機(株)
2代 1975～1978	盛 実幸	3期	昭和貿易(株)
3代 1979～1982	浜口 正巳	3期	㈱資生堂
4代 1983～1985	江口 康哉	14期	榎谷包装産業(株)
5代 1986～1989	北村 康	1期	千代田紙工業(株)
6代 1990～1999	金井 隆市	19期	日本製紙(株)
7代 2000～2009	谷口 暢男	14期	積水化学工業(株)
8代 2010～現在	桃川 公一	23期	凸版印刷(株) ライファン工業(株)

関西支部歴代支部長



関西支部だより

◆ミニセミナーの開催

◇第48回 2022年12月12日(月)

検温とアルコール消毒、マスク着用、会場の入口開放、受講者数を会場定員の半数に制限等の感染防止策でリアル開催致しました。

凸版印刷(株)の堀内講師から「デジタルプリントによるレトルト対応パウチの開発」のテーマで、独自に開発した接着剤「TOPMER™」で、耐熱・耐水性機能を付与させることができ、汎用ラミネーション機で容易に製造できるレトルトパウチ生産の内容について分かり易く説明いただきました。

レンゴー(株)高比良講師には「環境への取り組みと段ボール業界トレンド」のテーマで、段ボール業界におけるリサイクル率や原紙坪量などの変化を交え環境の取り組みの現状と今後の展望と共に、デジタル印刷やEコマース対象包装システムを含めて段ボール業界のトレンドについて分かり易く説明いただきました。

両テーマとも参加者から活発な質問が飛び交い、大いに盛り上がりました。



堀内講師



高比良講師



セミナー風景



セミナー参加の皆様

◆関西支部 定時総会報告

2023年6月2日(金)、関西支部定時総会を大阪市立総合生涯学習センター第6研修室にて開催。

総会の挨拶では桃川支部長から22年度支部創立50周年記念式典が盛況裡に開催できたお礼と23年度は会員にとって引き続き魅力ある事業を提供する目的で①事業の継続(ミニセミナー15年目、合同研究会14年目、見学会&セミナー20年目)、②リアル+WEBセミナーの実施、③新規事業の検討の3項目の活動をあげた。



○第1号議案・22年度活動実績内容について、桃川支部長から活動実績を報告。支部設立50周年記念式典及び見学会&セミナー、ミニセミナー2回、合同研究会の事業を計画通り全て実施できたが、第57期包装管理士講座合格授与式が集会方式中止により新包装管理士メンバーとの交流や入会活動ができなかった。下茂議長が報告内容の賛否を求めたところ、全員異議なく、これを承認いただきました。

○第2号議案・22年度会計報告について田淵委員から収支結果の報告。単年度収支では約247千円のマイナスであったが、50周年式典事業が主な支出である旨を説明。引続き細田委員から会計帳簿、収支決算書を監査したところ、公正妥当な会計習慣に従って作成されている旨を報告。下茂議長が収支決算報告の内容、監査報告内容について賛否を求めたところ、全員異議なく、これを承認可決いただきました。

○第3号議案・23年度活動計画について、桃川支部長から活動計画を説明。見学会&セミナー、ミニセミナー4回、合同研究会を予定、特に昨年末から再開した交流会をすべての事業で実施したいとのことであった。下茂議長から賛否を求めたところ、全員異議なく、これを承認いただきました。

○第4号議案・23年度予算計画について、新会計担当である内田委員から活動予算案を説明。会員数減による活動費用減はあるが、持続できる事業活動にむけて事務所経費の削減と前期繰越金の使用する旨の報告であった。下茂議長から賛否を求めたところ、全員異議なく、これを承認可決いただきました。



○第5号議案・23年度役員選出について、桃川支部長から運営委員候補8名を説明。22年度退任者3名に伴い新しく新任運営委員3名の候補者①吉永雅信氏（凸版印刷(株)）、②古井真夫氏（支部会員）、③木野元朝幸氏（セットカートン(株)）を紹介。下茂議長から賛否を求めたところ、全員異議なく、これを承認可決いただきました。

以上で議案が終了し議長から閉会を宣した。

細田基則さん、田淵啓司さん、平田通文さん、支部運営委員として長い期間お世話になりありがとうございました。新運営委員3名については次号ippニュース・関西支部だよりにてご紹介致します。



中部支部だより

【2023年度包装設計の基礎講座】

2023年5月18日（木）・19日（金）の2日間、JPI中部支部との共催で「2023年度包装設計の基礎講座」を愛知県技術開発交流センターで開催いたしました。

新型コロナウイルス感染症の5類移行直後の開催となり、感染予防についても各自の任意の判断に委ねる形とさせていただきますが、33名の受講者および講師各位・会場関係者のご協力のもと、全プログラムを無事に開講することが出来ました



【第54回中部支部定期総会（書面審議）】

2023年度の「第54回中部支部定期総会」については、コロナ禍の各種制限からの脱却と併催事業の実施形態の変化等の状況を踏まえて、中部支部運営委員会にて様々な視点から開催方法の検討を行った結果、総会の目的でもある各年度の事業内容を広く確認・審議いただく形が望ましいとの判断から、全支部会員のお手元に議案書が行き渡る形の「書面審議」による定期総会の開催を継続させていただくことといたしました。

中部支部運営委員会において事前に審議・承認をいただいた「第54回中部支部定期総会議案書」

を中部支部会員各位に郵送した上で、「審議内容同意書」を返送いただく形での手続きを以て総会での審議に代え、多数の同意をもって各議案が承認されました。

【2023年度事業計画について】

2023年度の事業計画に関して、コロナ禍から始まったJPI全支部共同のオンライン講演会（ウェビナー）として開催される「JPIWEBフォーラム」のうち、JPI中部支部で企画・運営を担当するウェビナーについて、IPP中部支部との共催を継続し、IPP中部支部の所属会員も引き続き参加費無料にてご参加いただけます。

「JPIWEBフォーラム」以外の研修事業（包装技術講習会・日本パッケージングコンテスト入賞作品

発表会・包装技術研究大会中部大会）については、従来通りJPI中部支部と共同で企画運営を進め、中部支部の独自事業として別途開催を予定しております。なお、開催方式については、対面・オンラインのいずれの形式とするか、会員各位の要望と社会の情勢を踏まえて検討の上、開催案内パンフレットにて皆様にご案内申し上げます。

今年度からは賀詞交歓会等の会員交流事業についても再開が見込まれますので、引き続き会員の皆様のニーズに沿った事業運営が行えるよう、支部長をはじめとする中部支部運営委員一同・事務局が一丸となって取り組んでまいりますので、今後ともご理解・ご協力の程どうぞよろしくお願い申し上げます。

西日本支部だより

西日本支部 副支部長 末松洋亮 (25期)

◆第46回 西日本支部 定時総会

第46回日本包装管理士会西日本支部定時総会は、新型コロナウイルス感染予防のため、開催せずに、昨年と同様に活動報告・決算報告を会員の皆様にEメールまたは郵便で送付し、承諾書を返送して頂くことに致しました7月7日時点で承諾書の返送数が会員の過半数に達しました。この場をお借りしまして、お礼を申し上げます。

本年度の事業計画は、以下の通りです。

- ・役員会：年4回
※対面とオンライン形式にての開催を予定
- ・研究会、後援会、見学会、交流会等：
JPI西日本支部と共催

役員は昨年度に引き続き担当制とし、以下の通り選任されました。

- ・支部長：藤生 廣来（総括）
- ・副支部長：末松 洋亮（ippニュース・企画等）
- ・副支部長：森永 浩史（JPI事務局長・企画）
- ・事務局長：八田 彰（事務局）
- ・理事：中村 格勇（出納・企画等）

今年度は、引き続きJPI様との協力関係のもと、講演会、見学会、交流会を対面で開催できるよう準備を進めるとともに、インターネットを利用した情報発信等で、できる限り充実した事業企画を目指していきます。

◆令和4年度第1回ふくおかプラスチック資源循環ネットワーク会議

JPI西日本支部の協賛事業として「ふくおかプラスチック資源循環ネットワーク会議」をWEB講演にて行いました。

（日程）2022年7月29日（金）

◆JPI西日本支部との共催での包装研究講演会

西日本支部との共催事業で以下の発表会をZoomウェビナーにて開催しました。

①株式会社YEデジタル

（日程）2022年10月19日（水）

（テーマ）AI外観検査の最前線

②三菱商事パッケージング株式会社

（日程）2022年11月10日（木）

（テーマ）コンビニ中食容器包装の環境対応

③セイコーエプソン株式会社

（日程）2022年11月21日（月）

（テーマ）個装箱のコンテナ輸送効率シミュレーション開発の取り組み

④凸版印刷株式会社

（日程）2022年12月6日（火）

（テーマ）個装箱のコンテナ輸送効率シミュレーション開発の取り組み

北海道支部だより

北海道支部長 會田慶太 (47期)

5月23日に北海道支部の総会を終え、2023年度の活動が始まりました。残念ながら2021年度に続き昨年度もコロナ禍により、包装懇話会、研究会、親睦会等の行事すべてを中止とせざるを得ない状況でした。新型コロナウイルス、ロシアによるウクライナ侵攻、そして北海道では鳥インフルエンザが猛威を振るい暗いニュースばかりが目立つ年でした。その様な中、5月8日に新型コロナウイルスが5類感染症に移行されました。街は少しずつ賑わいを取り戻し、外国からの観光客も徐々に増え始めました。長かったコロナ禍から抜け出し、待ちに待ったアフターコロナです。まだコロナが終息した訳ではない為、慎重な行動は依然必要ですが、世の中が明るく活気づいてきたように感じます。3月には日本ハムファイターズの新本拠地「エスコンフィールドHOKKAIDO」が稼働。北海道民は大盛り上がり。6月には初夏恒例のYOSAKOIソーラン祭りがフル開催され、続く各地のお祭りも開かれております。7月21日からは、さっぽろ大通ビアガーデンが開催され、短い夏の到来となります。嫌なニュースを一気に吹き飛ばす勢いの北海道となっております。

一方仕事面はというと、昨年に続き北海道は平穏な天候が続いており、主力の一次産業が活気づいております。実りの秋、豊漁の秋を迎えるまでは油断は出来ませんが、一次産業の出来不出来で影響を大きく受ける北海道としては、このまま平穏に続くことを願うばかりです。一次産品が潤い、それを原料とした各メーカーの稼働が上がり、インバウンドを含めた人の流れが増え、観光需要も活気づく。そしてそれを底支えする我々包装業界においても。。。

当支部の活動においては、9月に数年ぶりに親睦会を開催する方向で調整をしております。開催できなかった期間で人事異動等もあり、顔ぶれも変わっているかと思えます。改めて交流を深め支部活動を本格的に再稼働させたいと思っております。



東北支部だより

東北支部長 鈴木 雅彦(23期)

コロナ感染症の扱いが下がりましたが、気候変動の影響でしょうか、東北地方は例年と違い暑くなるのが早く、既に30度超える日が続いています。日本全体がすっぽり亜熱帯の気候に成ってしまったのでしょうか・・・。



東北支部では総会が7月にずれ込んでしまい、やっと7月11日に開催する事が出来ました。対面での開催と致しましたが、日時の設定に問題あったのか参加者少なく、ちょっと残念でした。豪華？昼食を皆さんとご一緒し、久しぶりに会員皆様の近況や、市場動向について会話する時間が持てた事は、大変楽しかったです。どうも昭和世代は対面が好きで、昔の働き方と現在の働き方の違いに話題となり、普段会話できないような話もでき、有意義な時を過ごすことが出来ました。管理士会で作ったネットワークをやはり有効に活用し、お互いの研鑽の場にする事も大事だと、参加者一同再認識しました。



第38回総会では長年と言うより東北支部の立ち上げから、運営にご尽力頂いた13期の斎藤昇様の、事務局長退任に際し御礼の品を贈呈させて頂きました。

た。また日本包装技術協会東北支部からは山田運営委員長にもご臨席賜り、今までのご功績へのお言葉と記念品の贈呈を頂きました。斎藤様からは今までの歴史や思い出をお話し頂き、今までの活動を振り返りました。その中で、管理士会支部活動は手弁当で仲間が集まって、それぞれの知見を活かし、勉強会や工場見学会や泊りでの旅行企画などで盛り上げてきました。



その企画の中心で活躍して頂いたのが斎藤事務局長でした。実は歴代支部長はとても楽をさせて頂いていました。特に工場見学会などは、必ず先方とコンタクトされ、綿密な見学会が出来ていました。特に私が印象に残っているのは、仙台空港の貨物ステーション見学でした。大雨の中カッパを着て空港の中を見学させて頂きました。普段は立ち入れない場所にも入場でき大変参考に成ったのを記憶しています。本当にありがとうございました。この場をお借りして御礼申し上げます。

さてコロナ禍で分かった、webの活用で地域の距離感を気にしなくても活動できる事。マイナスの中で学んだ事も有ります。そこで今年は活動も再開し、少し積極的な活動計画を会員各位へご提供したいと考えています。また支部を越えた活動にも、チャレンジして行きたいと思えます。勿論包装技術協会東北支部も我々管理士会が支えるぐらゐの気持ちをもって頑張ろうと、総会は終了いたしました。

関東支部だより

50 KANTO | 関東支部50周年記念セミナー企画 【第7回】

日本のプラスチックの資源循環利用の現状

ープラスチック資源循環促進法施行後1年が経過してー

関東支部主催の50周年記念講演会の第7回講演会は、2023年4月21日(金)14:00～15:30にてZoomを使用したオンラインにて行われました。

関東支部の50周年記念セミナーは第7回目となり最終となりました。

講師に一般社団法人 プラスチック循環利用協会 総務広報部 広報学習支援部長 富田斉様を迎え、現在注目されている、プラスチックの資源循環利用の現状についてお話を頂きました。

まずは一般社団法人 プラスチック循環利用協会の概要とプラスチックを作る工程として、原油からプラスチックまでの流れと、主なプラスチックの特性と用途についての説明がありました。

また、包装容器以外のプラスチックの利用として水族館の水槽や、海外のお札、日本の選挙投票券についてもプラスチックが使用されている等の説明がありました。

昨今のプラスチックの3つのリサイクル方法と生産・廃棄・再資源化・処理処分の状況、プラスチック製品の環境負荷をLCAの視点で考えた事例などについてご紹介いただきました。

実際に発泡スチロールやPETボトルのリサイクル方法についての説明がありました。さらに、最近のプラスチックに関するトピックスとして、中国をはじめとする使用済みプラスチックの輸入規制措置による影響から、施行後1年が経過したプラスチック資源循環促進法で何が変わったかまでについても説明していただきました。

講演は図や表が多く、非常にわかりやすい資料で、参加者は15名で有意義なセミナーとなりました。

(報告者：古平 篤 25期)

関東支部だより

第51回

関東支部定時総会に関するご報告

関東支部長 古平 篤 (25期)

関東支部第51回定時総会は、6月23日14時～15時に池袋にあるアットビジネスセンター801号室で開催され、同時にWEBでも配信されました。議案書はホームページに掲載し、またe-mailでも関

東支部の会員に送信し、議決権行使は今回はe-mailで確認しました。e-mailを受信できない方には書類を会員の住所まで送付し、ハガキによる投票をお願いしました。会場には参加者11名あり、WEBでの参加もありました。

6月23日、14時～15時にWEB併用で総会を開催しました。皆様のご参加、誠にありがとうございました。回収された議決権行使のe-mailおよびハガキの結果(詳細な内容)は以下の通りです。

関東支部登録会員数236名の1/5、すなわち48名以上であることから、本総会は成立しました。

- 定足数：48名 会員数236名の有効定足数は定款17条により会員の1/5=48名
- 投票数：60票 e-mailおよびハガキ投票・当日会場、WEBでの参加投票
- 有効票：60票 e-mailおよびハガキ投票・当日会場、WEB(無効票=0票)
- 議決権行使票および会場・WEBでの賛成票 60票(反対票=0票)

(内訳：ハガキでの賛成票7票、当日参加による賛成票11票、e-mailでの賛成票42票)

- | | | |
|------|--------------------------------|-----------|
| 1号議案 | 2022年度事業活動報告及び2022年度収支決算報告承認の件 | ⇒ 承認されました |
| 2号議案 | 2022年度監査報告 | ⇒ 承認されました |
| 3号議案 | 2023年度事業活動計画(案)及び収支予算(案)審議の件 | ⇒ 承認されました |

IPP写真研究会 活動報告

IPP写真研究会会長 荒牧 哲(23期)

1. 撮影会を3回開催

コロナによる行動制限が緩和された2023年に入って、半年の間に次の3回の撮影会を行いました。

①4月2日 神田川花見、②4月30日 高円寺びっくり大道芸、③6月30日 小江戸川越大師(喜多院)びっくり大道芸撮影会には作品作りの指導を受けている写真家の講師も参加、撮影会終了後の懇親会も盛り上がりました。

2. 写真展の準備を開始

2023年も恒例の横浜山手で写真展を開催します。囲み記事を参照ください。会員各自が選んだ撮影データを個別に講師に送り、組み写真の選定・トリミング・調子修正(現像)などの相談・指導を受け、展示作品の作りを進めていきます。

3. 写真展へのトライアル参加者を募集

(管理士会会員対象)

「講師の指導を受けてA3判作品1点を作り、横浜での写真展に展示する」までを体験できます。希望者は関東支部事務局あてメールで申し込み下さい。

(ipp.kanto.pack.50@gmail.com)



2023.4.30 高円寺びっくり大道芸大会撮影会での記念写真

横浜の観光スポット、山手の洋館で写真展を開催

名称 IPP写真研究会

第18回 楽しい写真展

日時 2023年10月6日(金)12時

から10月9日15時まで

会場 横浜山手234番館ギャラリー

関東支部・第1回・見学会報告

理事 福野 壽史 (16期)

日時：2023年4月13日（木曜日）13時30分、
品川、ヤマトグループ歴史館集合
（クロネコヤマトミュージアム）

場所：ヤマトグループ歴史館、
伊東屋本社11階 FARM、
セイコーミュージアム銀座

コロナ禍で長い間中断していた関東支部見学会を4年ぶりに実施しました。参加者は8名と少なかったのですが、久々の開催で参加された方々も楽しみにされていたようです。

「ヤマト歴史館」では、説明員によって「ヤマト運輸」の成り立ちから現在までの100年、また未来100年を想像しストーリー化しています。品川駅から徒歩10分ほどの「ヤマト港南ビル」全館を占有しスケールの大きさを感じました。「伊東屋 FARM」は、本店ビルの11階に野菜工場見学スペースを設けLEDを利用してフリルレタス、ルッコラ、ミント、ケールなどを育てています。2週間ほどで育った野菜を12階のレストランで食することのできるシステムを作っています。「セイコーミュージアム」は銀座のど真ん中に位置し、5階から地下1階までを見学スペースにしています。過去から現在までの時計の展示や昔の人はどのように時を知ろうとしたのか。見学をしていると時計の中に入り込んだようです。

見学の終了後午後5時から、居酒屋で情報交換会を行いました。出席者は6名でした。見学先の感想や今後の見学会場所などや会のあり方などについても話が進み、楽しく学んだひと時ではなかったでしょうか。情報交換会は午後7時過ぎに終了しました。



関東支部50周年記念

「スキルアップセミナー」の開催報告

理事 朝倉 久男 (42期)

関東支部50周年を記念してのスキルアップセミナー「アドラー心理学の勇気づけリーダーシップ」は、私の中小企業診断士仲間でありハリウッド大学院客員教授でもある岩井俊憲先生に3回シリーズで講演を頂いた。

第1回目は2022年10月26日（火）に「勇気と希望のアドラー心理学の概要」、第2回目は、2022年12月14日（水）に「困難を克服する活力を与える勇気づけを指針に」、第3回目は、2023年2月8日（水）

に「勇気づけリーダーシップを活かす」と題してお話し頂いた。

各回とも先生の解説から始まり、それを題材としたグループワークでは参加者内のリレーションづくり（グループ内での安心感、信頼感、貢献感）に繋げる楽しいものであった。（次頁続く）



岩井先生の優しい語りから、アドラー心理学の根本にある「勇気づけ」とは何か、講義の後半には何となく体得できるようになったのは不思議である。なお、第3回の最終回では、講師を交えて参加者とのリアルでの懇談・懇親会を池袋にて行い、大いに盛り上がりました。



猛暑が続く中、冷房の効いた部屋で本誌を編集しています。皆様から提出いただいた原稿を読んで、非常に高い熱量を感じ活気が戻ってきたことを実感しました。コロナ禍初期は、活動の停滞によりニュース原稿も少なく、編集に頭を悩ませていましたが、今回の号では逆に原稿が多く寄せられ、編集に夢中になってしまいました（笑）。もし冷房の効かない部屋で作業していたら、とっくに倒れていたかもしれません。皆様もくれぐれもご注意くださいませ。さて、大変申し訳ありませんが、ご提出くださった写真原稿の一部は誌面の都合で採用できなかったことをお詫び申し上げます。今後、IPPの活動がますます活性化していく中で、原稿量も増加の一途ですので、本誌のあり方も考えていく予定です。皆さまのご理解とご支援を賜りますようお願いいたします。（23期 道明 誠）

日本包装管理士会 / Institute of Packaging Professionals, Japan

e-mail: ipp@pk9.so-net.ne.jp
<https://www.ippj.net/>

■本部	〒 104-0045	東京都中央区築地4-1-1-東劇ビル10F 日本包装技術協会内	TEL : 03-3543-9250 FAX : 03-3543-8970
■北海道支部	〒 060-0001	札幌市中央区北一条西2丁目 北海道経済センタービル 北海道生産性本部内	TEL : 011-241-8591 FAX : 011-241-3898
■東北支部	〒 021-0893	岩手県一関市地主町 3-35 株式会社東北ウエノ内	TEL : 0191-21-4531 FAX : 0191-21-5381
■関東支部	〒 115-0051	東京都北区浮間1-7-17 *古平 篤 関東支部長宅	ipp.kanto.pack.50@gmail.com
■中部支部	〒 460-0003	名古屋市中区錦3-5-21 錦HOTELビル 3D 日本包装技術協会内	TEL : 052-228-2930 FAX : 052-228-2980
■関西支部	〒 550-0014	大阪市西区北堀江1-1-27 イマイビル4階	携帯 : 090-4305-3906 (桃川) FAX : 06-6584-8986
■西日本支部	〒 849-0921	佐賀県佐賀市高木瀬西6-3-2 株式会社サガンキ内	携帯 : 090-9876-7832

..... Copy & FAX 用切取線

日本包装管理士会会員登録データ変更届

■宛先 日本包装管理士会事務局 Fax:03-3543-8970 ☎:03-3543-9250

フリガナ	会員番号	番
氏名	届出日	令和 年 月 日
会社	社名 所属 住所 〒 TEL E-mail	FAX
自宅	住所 〒 TEL E-mail	FAX